

旭川市立大学開学記念 保健福祉学部研究紀要

公立大学法人旭川市立大学

理事長 高瀬善朗

本学を顧みると、北海道開拓が始まったばかりの1898年（明治31年）に、当時、人口6千人弱の旭川村に女性のために創立された旭川裁縫専門学校に、その源を発します。

明治・大正・昭和と激動の時代の中であって多くの変遷がありましたが、大学としては1964年（昭和39年）に旭川女子短期大学部家政科、1968年（昭和43年）に北日本学院経済学部が開設され、1970年（昭和45年）に本学の前身である学校法人旭川大学となり、平成・令和と歩んできました。

保健福祉学部は、日本社会が高齢化と人口減が進んでいく中、道北の中核都市である旭川において地域の福祉と看護を担い更なる地域貢献を果たすべく、コミュニティー福祉学科と保健看護学科をもって2008年（平成20年）に開設されました。

このように、旭川大学は半世紀を超える歴史と伝統を有し、地域に根差した大学として教育・研究を進め数多の人材を輩出するなど、その果たしてきた役割は大きいものがありましたが、この難しい時代にあって公立化という途で新しい歴史を刻むべく、2023年（令和5年）4月に公立大学法人旭川市立大学として、旧法人と同様に旭川市立大学と旭川市立大学短期大学部を開学させました。

旭川大学の公立化への途は、2016年（平成28年）に「旭川大学の公立化の推進に関する要望書」を旭川市に提出してから7年の月日を要しましたが、当時、旭川市においては若年層の市外流出傾向が続き、地域における人材不足そして少子高齢化や子供の貧困対策、地域経済の活性化等の課題が顕在化してきておりました。

旭川大学の公立化には様々な議論がありましたが、「学生がより低廉な学費で学ぶことができ、地域の若者や地域外の若者が多く集まることで地域の賑わいや活性化につながる」、「地域で活躍する人材を育成しこの地域での定着を図ることで、持続的なまちづくりに資する」、「公立大学の設置により、まちの競争力や魅力が高まる」等のメリットが考えられ、何よりも千人規模の学生を有する大学を維持することができるとの判断から、新学部の設置も視野に入れ、大きく舵がきられました。

本学は、公立化に当たり、3つの理念を掲げました。

豊かな人間性と国際的視野を有し自律した人材を育成する大学

創造と実践で時代を切り拓く大学

知の拠点として地域社会に貢献する大学 であります。

この理念には、これからの時代を生きていくキーワードが盛り込まれてあります。

「豊かな人間性」は人として普遍的に求められる要素であり、「国際的視野」はグローバルな時代に活躍するために必要なものでありますし、地域課題を考える時でも広い視野が欠かせません。「自律」とは他の人とも協働しながら自らを切り拓いていくという想いです。

「創造と実践」とは、両方兼ね備えることによりイノベーションを起こすというイメージであり、「知の拠点」とは地域のシンクタンク的な使命も果たして地域貢献していくことと考えています。（これらの解釈は私見です）

保健福祉学部は、人に寄り添う職業人を育成する学部であり、学びの中で豊かな人間性と高度な専門知識と実践力を養うことが不可欠であり、そういう人材を輩出することは大きな地域貢献そのものであります。

そういう意味でも保健福祉学部は旭川市立大学を体現する重要な学部であり、これからの期待も非常に大きなものがあります。創設時に大変なご苦勞をいただき、これまでに保健福祉学部を育てていただいた多くの関係者に感謝申し上げます。

旭川市立大学は、公立大学として見えないゴールに向かってスタートを切ったばかりであります。国立大学でもなく私立大学でもない公立大学であることの意義を十分に認識しつつ、新しい時代の鐘を撞くためには不断の努力が必要であります。

理事長としては、公立大学法人として安定した経営基盤を確立し、教育環境や研究環境を充実させることによって、掲げた理念が実現できる大学へと成長できるようその使命を果たしていきたいと考えています。